

動物看護師の現状と未来の展望

中間 實 徳

東亜大学 医療学部 医療工学科
nakama@toua-u.ac.jp

<序 文>

本論文では、動物看護師の我が国における現状について、その背景となる獣医学の歴史、動物、とくに犬・猫の飼育環境の変化、動物が人の健康にもたらす効果、動物との別れ、動物福祉と虐待等の社会問題、それらを踏まえた動物医療の獣医療の現状を紹介する。そういう動物を取り巻く状況の中で、動物看護師はどのような教育を受けるのか、動物看護師養成大学と動物看護師の資格について述べたい。最後に、小動物獣医療の基盤となる犬・猫のこれまでの飼育頭数の推移と動物看護師の職域の拡大と今後の展望を取り挙げ、問題提起をしてみたい。

第1章 わが国における動物の診療の歴史

1) 古代から中世の獣医学

わが国の動物に関連する分野を回顧してみると、古事記による大国主尊と因幡の白兔の故事（注：隠岐の島から因幡国に渡るため、兔が海の上に並んだ鰐鯨を敷き渡るが、最後に毛をむしり取られ丸裸にされているのを大国主尊が憐れんで蒲の穂で包み治したという）が、文字に記載された最古の獣医療とされている¹⁾（鳥取県倉吉市にある公益財団法人・動物臨床医学研究所のロゴマークには、蒲の穂と白兔が描かれている）。

聖徳太子の時代には、中国や朝鮮から仏教医学導入され、文武天皇の代に制定された大宝律令（701年）には、医師、馬医師の制度や疾病の手当てなどを定めた厩牧令が出来ている¹⁾。平安時代末期から鎌倉時代の武士階級の勃興とともに、軍用としての馬産が盛んになり、馬の傷病を治療する「白薬」と呼ばれる馬医師が出現している¹⁾。江戸時代に入ると、

5代将軍徳川綱吉は、「生類憐れみの令」を制定し、広大な飼い犬収容施設（現・東京都中野区）を設置し、保護した^{1,2)}。8代将軍吉宗の時代（1725年）にオランダから輸入された馬5頭とともに来朝した Hans Jurgen Keijer が馬医書を持参し、これを今村市兵衛が「西説泊楽必携」をあらわした¹⁾。徳川幕府末期にフランス獣医学が導入され、明治5年には開拓使仮学校が設立された¹⁾。明治9年（1876年）に札幌農学校（後の北海道大学）が開設され、アメリカの William Smith Clark の下でアメリカ式農学教育と獣医学教育がなされた¹⁾。明治13年には世界で最も進んでいたドイツから Johannes Ludwig Janson が教師として駒場農学校（後の東京大学）に招聘され、ドイツ式の獣医学教育が行われるようになった^{1,2)}。

2) 第二次世界大戦から戦後の獣医学

世界大戦中は軍馬が重宝され、その健康管理に当たる陸軍獣医将校は、待遇も相当に良かった。戦後は食料増産が国の命題となり、牛や豚などの食用動物（産業動物）の生産が主流となった。そのため、こ

これらの家畜の診療を行う獣医師の需要が高まり、獣医師の多くは都道府県の家畜保健所や全国にある農業共済組合 (NOSAI) 等に就職した。1950年代から日本の高度成長と相まって、小動物臨床への関心が高まり、獣医師は犬や猫の病院に就職する人が多くなった。

第2章 犬・猫の飼育環境の変化とそれに伴う問題

1) 番犬やねずみ取りの猫からコンパニオンアニマルへ

これまでの「番犬」や「ねずみ取りの猫」は、多くが室内飼育されるようになり、ペットと呼ばれるようになり、1970年代からコンパニオンアニマル [Companion Animal (伴侶動物)] として家族の一員となった³⁾。犬の場合、室内で飼育されることで、清潔にするようになり、病気の早期発見も進展した。さらに、飼い主は各種の予防注射やイヌフィラリア症等の予防を行うようになり、動物の平均寿命も大幅に伸び、犬で14 - 15歳、猫では16 - 17歳位になった。この様に長寿になることにより、犬や猫では歯科疾患、白内障、糖尿病などの代謝疾患、腎臓病、椎間板ヘルニアなどや脊椎や肢の変形性関節症、乳腺腫瘍 (雌犬) や前立腺腫大 (雄犬)、各部位の癌なども多く見られるようになった⁴⁾。さらに、エキゾチックアニマル (Exotic animal) と呼ばれるハムスター、ウサギ、モルモット、シマリスのほか、ニワトリ、アヒル、小鳥、カメなどの両生類、金魚など多くの種類の動物も小動物開業獣医師の診療対象となってきている¹⁾。

2) 動物が人の健康にもたらす効果

子どもの社会的・情緒的発達に対するペットの直接的影響について、Endenburgら⁵⁾は家庭内にペットがいれば、親と子はその世話を分かち合い、その結果として幼い頃から子どもは動物の世話や育成をどのようにしたらよいかを学ぶことになるとしている (Animal Assisted Education; AAE: 動物介在教育^{6,7,8)})。そして、子どもの発達に対する影響についてはペットと子どもの関係のあらゆる側面から検討をする必要があるとしている。Hartは高齢者に対するペットの役割と題した論文に、一部の高齢者では確かにペットの飼育は社交の促進、ストレスの軽減、動機付けをもたらすことが明確化された⁹⁾と述べている。Friedmannは、人の心臓病棟に入院後、ペットの飼い主と飼っていない

人について、1年後の生存率を比較した結果、ペットを飼っている人の方が有意に生存率は高かった¹⁰⁾と述べている。Bustad¹¹⁾はアニマル・アシステッド・セラピー (Animal Assisted Therapy; AAT: 動物介在療法) の実例として、米国オハイオ州の刑務所に開設された施設で、猫、山羊、鳥等の世話を任された受刑者の方が、動物を与えられなかった者よりも、暴力的傾向が少なく、適切な社会行動が増え、規則違反を犯す回数も少なく、必要とする投薬の量も減ったということを紹介している。

また、アラン・ベックらは、人を安心させ、愛し、そそがれた愛情に応える動物の力が、他には例を見ない方法での治療効果を示す事を¹²⁾紹介している。それは、人の力からでは助けることができない、精神的に傷ついた人の治療では、ペットだからできる役割がある。うつ、引きこもり、絶望、無力をみせる殆どの患者は、他人から受けた言葉によって傷ついている。しかし、動物は言葉を持たないため、人を受け入れることのできない患者でも、動物なら受け入れることができるとしている。

Fredrickson¹³⁾は「動物が人の生活の質の向上をもたらすために、動機付けの促進となるような、あるいは教育的、娯楽的機会を与える」のが、Animal Assisted Activity; AAA (動物介在活動) であるとしている。その他、乗馬による身障者の機能回復などにも効果のあること¹⁴⁾が判り、日本でも応用されている。

麻布大学のNagasawaら¹⁵⁾は、犬と飼い主がお互いに30分ほど触れ合い、その前後で尿中のオキシシン濃度を比較したところ、見つめ合い時間が長い場合には、飼い主も犬も共にオキシシン濃度が増加したことを報告した。オキシシンは下垂体後葉から分泌されるホルモンで、乳牛の搾乳前に暖かいタオルで乳房を拭くことによってオキシシンが分泌され、2-3分で乳汁が乳槽 (乳房の下方に乳汁が溜まる場所) に下りてきて (Let down milk)、乳頭も腫大する。最近オキシシンは愛情ホルモンとも呼ばれ、これはゆったりした気持ちになり、母親と乳児の繋がりを深める効果があるとされている。いっぽう、戦争や恐怖など強いストレス下では、母親のミルクの分泌も悪くなることも知られている。以前、筆者は大阪の大学に勤務中、大阪国際空港 (伊丹市) 近くの酪農家が飛行機の爆音で乳牛がイライラして泌乳量が低下していると裁判所

に訴えたため、裁判所からそのような現象が起こるのかどうかを私に問われ、充分可能性のあることだと答申したことがある。

3) ペットロス (Pet loss) : 動物との別れ

愛する人や家族、あるいは一緒に過ごしてきた動物との死別は、深い悲しみを引き起こす。この悲しみは、さまざまな感情や思いが入り混じり、変化しながら一定の段階を踏んで回復していくことが、これまでの研究から明らかにされている。これには、第1段階 (死を受け入れないという、否定の段階)、第2段階 (思慕と探求の段階)、第3段階 (混乱と絶望の段階)、第4段階 (生活の再建の段階) があること³⁾を中島はその著書の中に紹介している。

筆者が以前、ブラジル・サンパウロ大学獣医学部の小動物病院を訪ねた時、もと病院長で名誉教授 (日系の女性) に、動物の安楽死を行う部屋を案内して頂いた。そこには、キリスト教、イスラム教、仏教、ユダヤ教などの祭壇が作られており、飼い主は安楽死された動物の霊を自分の宗教に則りその部屋で祀るという施設を見て、さすがに多民族が住む国だと感心した¹⁶⁾。日本の獣医系大学病院などでは、どこでも宗教色のないやり方で動物慰霊祭を実施している。動物病院で治療等をしたが甲斐なく死亡した動物や、学生実験で扱ったマウスやラットなどの実験動物の霊を慰める式典を関係者が集まって行っている。

4) 動物の福祉と動物の虐待

動物福祉の国際ガイドラインとして、5つの自由 (① 飢えおよび渇きからの自由: 給餌・給水の確保、② 不快からの自由: 適切な飼育環境の供給、③ 苦痛、損傷、疾病からの自由: 予防・診断・治療の適用、④ 正常な行動発現の自由: 適切な空間、刺激、仲間の存在、⑤ 恐怖および苦悩からの自由: 適切な取り扱い) があり、この5つの自由が保障されなければ十分な福祉が得られていないと考えられている¹⁷⁾。

日本では動物の福祉という観点からみると、多くの問題点が生じている。犬や猫のブリーダーは、人気のある品種が品薄になると遺伝的な疾患や、近親繁殖の弊害を知らずに、それらの品種を増やそうとする。そして、商品価値がない子犬や子猫を勝手に処分するという悪質な人もいないではない。日本では、ペットショップでの子犬や子猫等の販売は、生後56日以上でな

ければ店に展示できないようになった¹⁸⁾。しかし、動物福祉の先進国である欧米では、これらの幼子は展示できないことになっており、購入したい人はそこになる写真を見た後、飼い主のお宅を訪問し、3か月ほどしてから母親から離すという方法をとっている。これは、幼子を早く母親から離すと十分な社会化教育、つまり、子犬や子猫が動物として生きる知恵や行動が出来ておらず、将来新しい飼い主のもとで幸せに生活出来ない可能性が指摘されている。犬の場合、この社会化の時期は生後3—4週から10—12週まで、猫の場合は2週から9週までとされているが、品種や個体差もあるとされている。そして、社会化が不十分であったことが、動物の問題行動の大きな原因と考えられるとしている³⁾。

英国王立動物虐待防止協会の元・査察部長・Tony Crittenden氏は、英国の動物虐待防止について、5地域に5人の査察部長、40人の査察主任、27人の市場査察官、146人の動物収集官、278人の査察官などの陣容と組織があって、地域の警察官、行政の職員、獣医師、消防士らと共に協力して活動をしている。動物の飼育者は、1) 適切な環境、2) 適切な食餌、3) 動物の正常行動の展示、4) 他の動物と一緒にまたは一緒にほしくないこと、5) 疼痛、苦しみ、傷害あるいは疾患から守ることを徹底するよう監視をしているとのことであった¹⁹⁾。

第3章 動物医療の現状と動物看護師

1) わが国の動物医療の現状

近年、動物医療は先進国を初め、その高度化と専門化が進んできており、人医療と同様に、超音波診断、X線コンピューター断層撮影 (X-ray Computed Tomography: CT)、磁気共鳴画像法 (Magnetic Resonance Imaging: MRI) 等の検査装置の普及と相まって、疾病の予防や治療法も発展している。日本でも全国獣医系大学 (16校) の動物医療センターの他、会社組織の動物病院等にもこれらの装置が導入されて、二次診療のシステムが構築されている。山口大学動物医療センターには今年ライナックまたはリニアック (Linac: 線型加速器) が導入され、これによる癌の放射線治療が開始されることになった。東京では犬の血液透析を行う個人病院もあり、1日数万円の費用をかけて隔日に治療をしている飼い主もいると聞く。人

医療のような国民皆保険の制度はなく、動物では民間の保険会社による任意の加入制度はあるが、未だ十分な保障はないので多くは現金払いとなっている。東京にある会社組織の大きな動物病院で、獣医師20数名、動物看護師30数名、その他の職員など50人を超えるスタッフを擁する病院を筆者は訪問したことがある。その他20-40人のスタッフのいる動物病院は全国的にも多く見られる。

2) わが国の動物看護師養成大学

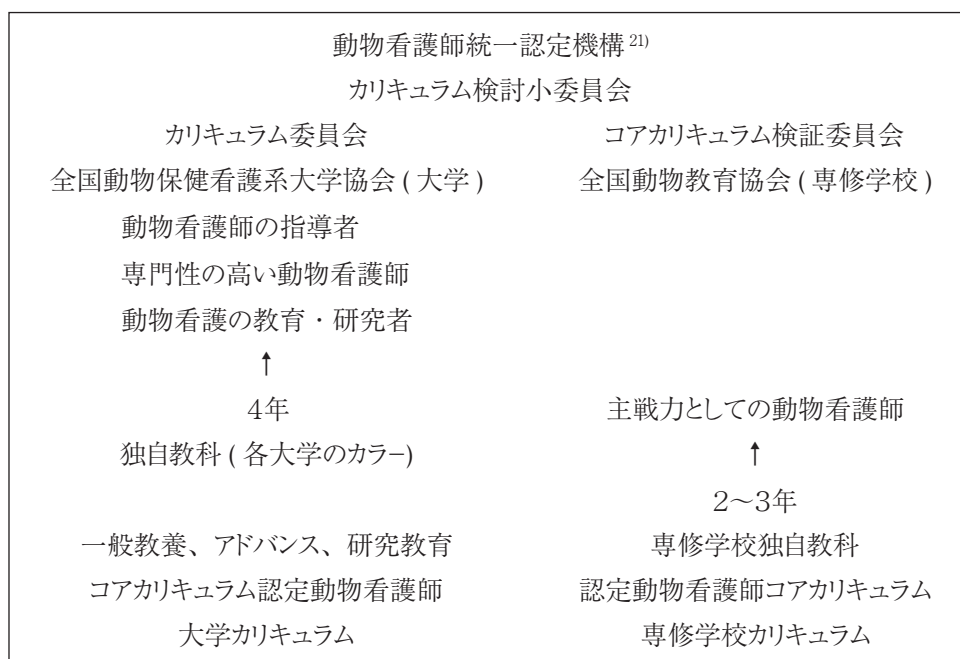
わが国の動物看護系大学としては、①酪農学園大学(北海道):獣医保健看護学類・動物看護師養成、②日本獣医生命科学大学(東京):獣医学部・獣医保健看護学科、③帝京大学(東京・山梨県):生命環境学部アニマルサイエンス学科、④ヤマザキ学園大学(東京):動物看護学部・動物看護学科、⑤千葉科学大学(千葉県):危機管理学部・動物危機管理学科、⑥倉敷芸術科学大学(岡山県):生命科学部・生命動物学科、⑦九州保健福祉大学(宮崎県):薬学部・動物生命薬科学科、および2014年4月に東亜大学(山口県)の医療学部医療工学科に動物看護学コースが8番目として設置された²⁰⁾。いずれも私立の4年制大学である。全国動物保健看護系大学協会の定期総会(2016年6月11日開催)で、東亜大学と千葉科学大学が共に協会に正式に加盟することが決定し、構成校は8校となり各大学から1名が幹事になることが決まった²¹⁾。著者はこの総会でゲスト

ピーカーとして参加した動物看護師統一認定機構長の佐々木伸雄・東大名誉教授は、2年制あるいは3年制の専門学校90余りで、統一認定試験の受験資格のある学校は審査の結果70校になったと報告した。

3) 日本での動物看護師資格

動物看護職については、2011年に動物看護師統一認定機構(初代機構長:山根義久・公益社団法人・日本獣医師会長)が設置され、これまで独自で行ってきた民間5団体(日本小動物獣医師会、日本動物病院(福祉)協会、全日本獣医師協同組合、日本動物衛生看護師協会)および全日本動物専門教育協会、日本動物専門学校協会、日本動物福祉機能協会の認定資格を取得した者は、今後は動物看護師統一認定機構の行う試験に合格しなければ「認定動物看護師」にはなれないことになった。2012年3月から行われている動物看護師統一認定試験は、専門学校卒業生と大学卒業生とは区別なく同一試験問題が課されている。従って、多くの大学生は3年次の3月に受験して合格者には「動物看護師」の資格が与えられているのが現状である。そして4年次には博物館学芸員や臨床検査技師、家畜人工授精師、エックス線作業主任者免許等の資格を取得するように指導がなされている大学もある²²⁾。

平成28年度全国動物保健看護系大学協会定期総会で配布された資料²³⁾には、現行の統一看護師認定機構は表のような構図になっている。



第4章 今後の展望

1) わが国の犬・猫の推計飼育頭数

(日本ペットフード協会調査 2015年12月)

ペットフード協会の報告²³⁾によると、「2015年の犬と猫の飼育実態調査の結果、推計で犬が約991万7千匹、猫が約987万4千匹になった。犬の飼育数は12年以降減少傾向にあり、猫はほぼ横ばい。犬と猫の差は年々縮まっており、同協会の担当者は「今後、猫が犬の数を上回るだろう」としている。同協会によると、1994年の調査開始後、犬の飼育数のピークは08年の約1310万1千匹であり7年間で約24%減少した。その理由について「独り暮らし世帯の増加や人間の高齢化で、散歩などの世話が必要な犬は数が減った」と分析し、猫については「日中家を空けている家庭でも飼いやすいとされるので、現状を維持しているのではないか」としている。年齢を比較しても、犬は高齢期とされる7歳以上が54.6%と多く、今後も減少が予想される。猫は6歳以下が54.4%と若いのが特徴だ。一般家庭で過去10年間に飼育された犬と猫の平均寿命は犬が14.85歳、猫が15.75歳で、昨年と比べてともに伸びていた。同協会は昨年10月にインターネットで調査し、60,992件の回答を基に全世帯数から飼育数を推計した。2014年の飼育数は犬が約1034万6千匹、猫が約995万9千匹だった。」日本の住宅事情から見て、室内犬や猫の頭数は維持されるであろうが、大型犬の増加は見込み難いと思われる。

2) 職域の拡大と職名の呼称変更の提案

これら犬・猫の飼育頭数も参考に、今後動物看護師の職域の拡大等も検討する必要がある。現在、わが国の動物看護師の資格は、専門学校卒の人も大学卒の人も動物看護師統一認定機構が行う年1回の試験に合格すれば、「認定動物看護師」の資格が得られる。筆者はこれらの資格を専門学校卒の人には、英国のようにAnimal Nurse（動物看護師）を、大学卒の人にはより専門性の高い別の試験で得られるVeterinary Nurse（獣医看護師）という資格を与えるように提唱してきた^{25,26)}。また、男性の動物看護師が増加する状況にあるなかで、家庭を持って生涯生活できる保障を与えるような職場として、生産動物（牛、豚、ニワトリ等）の臨床²⁷⁾あるいは衛生分野、野生動物関係²⁸⁾、獣医公衆衛生（食肉検査、食品衛生、動物由来感染症²⁹⁾）の分野、各都道府県にある動物愛護センターや学校飼育動物の飼育指導などは獣医師と共に公務員として仕事ができる職域であり、今後動物看護系大学でこれらの分野の教育を充実させることにより、新しい職場の展開が期待される。

参考資料

- 1) 日本看護学会編 「動物看護学 総論」(2005年) p.7、日本動物看護学会 発行
- 2) 幡谷正明他分担執筆「家畜外科学」(1995) p.2-4、金原出版
- 3) 中島由佳：「ひとと動物の絆の心理学」(2015) ナカニシヤ出版
- 4) 中間實徳 総監訳：「犬と猫の健康—メルク・メリアル マニュアル 家庭版」(2010) pp.1-709。インターズー
- 5) Endenburg, N. *et al.* : 人の健全な生活に貢献するペットの役割：子どもの発達への影響；Robinson, I. Edited, 山崎恵子訳「人と動物の関係学」(1997) p.9-21. インターズー

- 6) 中間實徳：学校飼育動物に対する獣医師の関わり(2004) 山口県獣医師会会報、第518号、p.1.
- 7) 中間實徳：動物介在療法・活動・教育の現状と未来(2006) 山口県獣医師会会報、第546号、p.4-5.
- 8) 日本獣医師会 「学校飼育動物の診療ハンドブック」(2000) p.3、社団法人 日本獣医師会発行
- 9) Hart, L.A.: 人の健康に果たすペットの役割：高齢者に対する影響；Robinson, I. Edited, 山崎恵子訳 「人と動物の関係学」(1997) p.23-39. インターズー
- 10) Friedmann, E.: 人間の健康に果たすペットの役割：その生理学的効果；Robinson, I. Edited, 山崎恵子訳 「人と動物の関係学」

- (1997) p.41-66. インターズー
- 11) Bustad, L.K.: セラピーにおけるペットの役割: Robinson, I. Edited, 山崎恵子訳 「人と動物の関係学」 (1997) p.67-74. インターズー
- 12) アラン・ベック&アロン・キャッチャー著 横山章光監修: 「あなたがペットと生きる理由—人と動物の共生の科学」 (2002) p.1-393. ペットライフ社。
- 13) Fredrickson, M.: アニマル・アシステッド・アクティビティ (AAA) :: Robinson, I. Edited, 山崎恵子訳 「人と動物の関係学」 (1997) p.74-77. インターズー
- 14) Burch, M.R. *et al.*: :: Robinson, I. Edited, 治療的乗馬: 山崎恵子訳 「人と動物の関係学」 (1997) p.81-84 インターズー
- 15) Nagasawa, M. Mitsui, S., En, S., Ohtani, N., Ohta, M., Sakuma, Y., Onaka, T. Mogi, K., and Kikusui, T.: Oxytocin-gaze positive loop and the coevolution of human-dog bonds. *Science*. (2015) Vol.348, 333-336.
- 16) 中間實徳: 遠き国・ブラジル (伯刺西爾) を訪ねて (2005) 山口県獣医師会会報、第 535 号、p.2-3.
- 17) 中間實徳監修: 「新・小動物看護用語辞典」 (2016) p.532. インターズー
- 18) 動物の愛護及び管理に関する法律 (最終改正: 平成 26 年 5 月 30 日 法律第四六号)
- 19) 中間實徳: 「動物福祉先進国・英国に学ぶ」を聴いて (2009) 山口県獣医師会会報、第 552 号 . p.4.
- 20) 中間實徳: 日本動物看護学会 20 周年記念大会に出席して (2015) 山口県獣医師会会報、第 651 号 . p.2-3.
- 21) 平成 28 年度全国動物保健看護系大学協会定期総会資料 (2016)
- 22) 内田英二: 酪農学園大学獣医保健看護学類のカリキュラムと人工授精師免許の取得 (2016) 日本動物看護学会誌、Vol.21, No.1, p.23.
- 23) ペットフード協会公表 (2015.12.): 平成 27 年全国犬猫飼育実態調査
- 24) Interview: 英国大学の動物看護学科長に訊く「動物看護教育をどう発展させるか」動物看護専門誌「as」(2013):Vol.25, No.10, p.68-73.
- 25) 中間實徳: 動物看護師の身分保障と処遇の改善を望む (2013) 大阪府立大学獣医学友会会報 Vol.57, p.7-8.
- 26) 中間實徳: 東亜大学動物看護学コース (4 年制) の立ち上げに向けて (2013) 山口県獣医師会会報、第 630 号、p.6.
- 27) 中村綾那、平塚可弥乃: 日本動物看護学会主宰シンポジウム ① 「生産動物分野での動物看護師の役割」—新しい職場としての可能性—(2016) 日本動物看護学会誌、Vol.21, No.1, p.20-22.
- 28) 中間實徳: 市民公開 野生動物シンポジウム (2006) 山口県獣医師会会報、第 547 号、p.5.
- 29) 中間實徳: 第3回神戸アニマルケア国際会議 2014 に参加して (2014) 山口県獣医師会会報、第 640 号、p.2-3.

英文タイトル The Present Status and Future Views of Veterinary Nurses.
 著者名 NAKAMA, Sanenori
 所属 Faculty of Medical Technology
 Department of Medical Engineering
 Course of Veterinary Nurse

東亜大学紀要投稿規定

2013年5月30日
東亜大学紀要編集委員会

I. 原稿の種類と分量

1. 原稿の種類は、「論文」および「研究ノート」、ならびに「その他の記事」とする。「その他の記事」とは、「学術的読み物」、「報告・記録」、「資料紹介」、「研究動向」、「書評・文献紹介」、「翻訳」をいう。最終的な原稿のカテゴリは、「東亜大学紀要査読結果報告書」に基づき、編集委員会が決定する。
 1. 「論文」とは、先行研究の批判的分析を踏まえた上で、問題（課題）設定がなされ、一次資料や原典をはじめとする信頼のおける資料に基づき、オリジナルな考察を展開し、説得的な結論的考察（展望）を導き出した論考をいう。また、実質的に、それによって日本の学界に学問的に貢献する、少なくとも日本の学界の水準を満たす論考を「論文」と定義する。「研究ノート」は、「論文」作成と同じ手順を踏みながらも、資料や論拠の提示などにおいて、なるほど「論文」に比して完成度は劣るものの（二次資料の引用や孫引きなど、いわゆる「ツメの甘さ」はあるが）、しかし専門の研究者にとって、論旨そのものは興味深く、説得的で十分理解できるものであり、かつ将来の研究の深化・発展を大いに示唆する内容の論考と定義する。
 2. 「学術的読み物」とは、厳密な意味で学術論文の体裁はとらないものの、研究者としての知的営為の結晶として広く公表するに値する様々なテキストをいう。「〇〇学入門」「〇〇のすすめ」「〇〇研究の最前線」「研究失敗談」「私の学位論文」「海外体験記」「私の研究と社会とのつながり」など、学生も含めた一般の読者へ啓発を意図する各種エッセイを含むほか、「展覧会評」「授業紹介」「シンポジウム報告書」などもここに入るものとする。また、大学院生も含めた若い研究者の研究を促進し、活躍の場を与える機会としての位置づけも有している。
 3. 編集委員長は、学長および編集委員会の意見を聞いた上で、本学の専任教員に、「学術的読み物」または「書評・書籍紹介」の執筆を依頼することがある。
 4. 「報告・記録」には、「優秀授業賞」を受けた本学専任教員の授業実践報告なども含まれる。
2. 原稿の分量は、次の通りとする。なお、以下の字数には、図表（1点を500字と換算）は含める。「上限」のみを記すが、「下限」も適切な範囲内であること。

○論文および研究ノート：	25,000字（上限）
○その他の記事	
・「学術的読み物」：	16,000字（上限）
・報告・記録：	8,000字（上限）
・資料紹介：	8,000字（上限）
・研究動向：	8,000字（上限）
・書評：	8,000字（上限）
・書籍（新刊書）紹介：	4,000字（上限）
・翻訳：	25,000字（上限）

II. 原稿

1. 提出原稿は、完成原稿とする。
2. 論文および研究ノートは、基本的に、規定分量内において、それ自体で完結したものでなければ

ならない（「論考の一話完結性」）。上記の規定分量を超過する分量の論考を分載したり，通し番号付の連作にしたりする場合においても，それぞれを一話完結型の体裁とすること。

3. 原稿は，査読用に，「論文」「研究ノート」については2部，「その他の記事」については，1部提出すること。査読に関しては，「東亜大学紀要査読要項」参照。
4. 原稿は，ワープロ原稿として提出すること。和文の字体は明朝体系とする。その際，プロポーショナル・フォント（フォントの名称に「P」の付くもの。例えば，マイクロソフトの明朝体なら「MSP明朝」と表記される）でないのが望ましい。また，英文の字体はTimes New RomanまたはCenturyとする。原稿用紙の使用は，原則として認めない。
5. 電子メールによる投稿は受け付けない。ただし，後述する査読が完了し，編集委員会の審査に通った原稿については，添付ファイルとして，電子メールで編集委員長宛に送付してもよい。
6. 投稿を希望する，もしくは投稿の依頼を受けた者は，「東亜大学紀要投稿申込書」によって投稿の申し込みをする。投稿は，随時受け付ける。なお，翻訳で投稿を希望する者は，申込みに際して「翻訳同意書」の提出が必要となる場合，本人の責任で，紀要編集委員会にこれを提出すること（書式は自由）。
7. 原稿はA4判横書きとし，行間および上下左右の余白は十分とること。
8. 執筆者名にはローマ字表記をつけること。連絡先の電話番号も書き添えること。（携帯電話が望ましい）
9. 論文および研究ノートには，査読用に，和文要旨（600～800字）を添付して提出する。なお，本文が和文の原稿の場合，掲載が決定された後で，英文要旨(150～300語)を提出すること。
10. 投稿は未発表のものに限る。他誌との二重投稿は禁止する。
11. 投稿原稿は編集委員会が審査するが，原稿の内容についての一切の責任は，最終的に執筆者本人がこれを負うものとする。
12. 掲載原稿の転載にあたっては，必ず編集委員会の許可を得ること。
13. 論文記載順序
論文記載順序は，次の通りとする。
①論文タイトル，②著者名，③所属（コース・研究室名も付記）④連絡先（E-mailアドレス），⑤和文要旨（400～600字程度），⑥本文，なお，注記および参考文献は，論文末に一括して記述する。最終ページには，①英文タイトル，②英文著者名，③英文所属，④英文連絡先，⑤英文要旨(150～300語程度)を付ける。

Ⅲ. 原稿の書式

「東亜大学紀要投稿規定」を参照のこと。

Ⅳ. 著作権

著作権は，東亜大学に帰属する。

Ⅴ. その他

1. 掲載料は徴収せず原稿料は支払わない。
2. 印刷，発送に係わる事務は，本学図書館がこれを行なう。
3. その他の細目については，編集委員会が決定する。